

# 南山形みんなの広場 難波さんに聞く！



地域食堂南山形みんなの広場 共同代表  
難波知晶さん(左) 難波睦子さん(右)

毎月第3日曜日、南山形コミュニティセンターに人が集まってくる。扉を開けた瞬間から明るい声が飛び込んでくる。靴が入り口にあふれるほど、この日の参加者は100人近く。地域のお年寄りも、活気あふれる学生も、みんなが同じ場所にいた。手作りの料理の香りが、空間全体に漂っていた。

## ●地域の声を受け取って

南山形地区では以前から地域食堂を作りたという声があった。ただ「誰がやるか」という壁を越えられずにいた。睦子さんが「私がやります」と手を挙げ、退職後に調理師学校へ通い、2023年10月に開いた食堂だ。農協や地域農家からの食材提供などに支えられながら、まもなく3周年を迎える。

## ★あの中学生が、卒業した

忘れられないエピソードがある。開催当初、一人の中学生が食堂の入り口に立っていた。学校に行けない日々が続いていた。「ここに、来ていいですか」——その一言から始まった。知晶さんはLINEを交換し、毎月日程を送り続けた。最初はあいさつもなかったその子が、通ううちに「ありがとうございます」「いただきます」が言えるようになった。

# に行こう

# 地域食堂



子ども食堂・地域食堂とは  
市内には30を超える子ども食堂・地域食堂があります。「食べる」だけでなく、人と出会い、つながる地域コミュニティです。



ある日の献立

- ・とりの唐揚げ
- ・ソーセージの炒めもの
- ・ケチャップライス
- ・たけのこ汁



食事も  
レクリエーションも



翌春、学校に向かうその子の姿を地域の方が見かけた。本人は「ここに来たから、学校にも行けそうな気がした」と話してくれたという。無事卒業し、今は高校生になった彼が、先日また顔を出してくれた。「ここに来ただけで、もう十分すごいことなんです。人の中に入っていくのって、本当に勇気がいることだから」（睦子さん）

## ☑「ダメ」とは言わない

運営方針はシンプルだ。子どものやりたいことを優先する。運営スタッフを食事担当と遊び担当に分けて、誰もが自由に過ごせる場をつくる。この日も学生ボランティアが子どもたちと体を動かし、笑い声が絶えなかった。

実はボランティアの中にも、もともと人づきあいが苦手だった若者がいる。通ううちに表情が明るくなり、今は社会で活躍している。「利用者だけでなくスタッフも成長できる場所なんです」（睦子さん）

## ☑心もおなかもいっぱい

孤立を感じている人に、睦子さんはこう言う。「誰でも来ていい。何か一つでも楽しいと思えればそれでいい」。何千人になっても無料でやり続けると決めている。子どもたちが「楽しかった、また来るね」と笑顔で帰っていく。「心もおなかもいっぱいになって、ニコニコして帰ってもらいたい。それだけで満足なんです」（睦子さん）  
そんな場所が、このまちにある。どこかの扉があなたを待っている。

南山形みんなの広場において

毎月第3日曜日  
南山形コミュニティセンター  
(松原203-1)  
参加費：無料  
問い合わせ：080-5848-6404

その他の子ども食堂・地域食堂や  
市内の居場所はこちら

# 遊びたいときも、あずけたいときも、

# 話したいときも。山形市はそばにいます。

## 雨の日も、晴れの日も。遊べる場所があります。

☎ こども未来課 ☎ 内線543

### べにっこひろば

天候に関係なく体をいっぱい動かして遊べる屋内施設。年齢別エリアと子育て相談を完備。



樋越22 ☎674-0220  
9:00~19:00

休 第2木曜（祝日の場合は翌日）、1月1日

### シェルターインクルーシブプレイスペース コパル

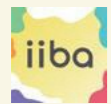
性別や年齢、障がいの有無など異なる背景を持つ子どもたちがともに遊べるインクルーシブな遊び場。子育て相談も。



片谷地580-1 ☎676-9876  
9:00~18:00

休 第2・4火曜（祝日の場合は翌日）、1月1日

※両施設の入園料：市民は無料、市外の方は7月から1回500円/人



行く前に施設の雰囲気を確認したいときは、子育てマップアプリ「iiba」が便利！市内には子育て施設がたくさんあります。初めての場所でも、iibaの写真や口コミをチェックすれば安心して足を運べます。



詳しくはこちら

## こども誰でも通園制度

☎ 保育育成課 ☎ 内線554

保護者のお仕事などの状況にかかわらず利用可能です。美容院に行く、買い物をする、身体を休めるといった日々のリフレッシュにも使えます。



### どんな制度？

対象：0歳6カ月～満3歳未満  
時間：月10時間まで  
料金：1時間 300円（減免あり）  
登録：保育育成課へ  
面談：利用前に各園で事前面談を  
予約：専用のWebシステムから



詳しくはこちら

利用者からは、「初めは不安もあったが、帰ってきた子どもの笑顔を見て、利用して本当によかった」という声が寄せられています。集団生活を通じて、家では食べなかった野菜を給食で完食したり、靴下を自分で履けるようになったりと、同年代の子どもたちと過ごす中でお子さんの成長を実感する機会にもなっています。

ここで紹介しきれなかった支援策などは、子育てガイドにまとめています。



## おやこよりそいチャットやまがた

言葉にするだけで、少し楽になる。あなたの言葉を、待っています。

☎ こども家庭センター ☎ 内線574

### どんなサービス？

親子がLINEで子育ての悩みを24時間相談できる無料サービスです。平日午前9時～午後6時は専門スタッフが、それ以外の時間は24時間対応の生成AI「AIちゃん」がサポートします。



登録はこちら



## このチャットから生まれたエピソード



### 気軽に一言から

「保育園の申し込みはいつからだろう」「放課後児童クラブの手続きも確認しなきゃ」。子育てと仕事に追われるなか、手続きのことで気になっていた保護者が相談しました。「いつでも相談できる場所があると**思うだけで心強いです**」との声が届いています。ちょっとした確認や相談にも利用できる場所です。



### 話すだけで、楽になる

「このままで大丈夫かな」「母乳は足りているかな」。そんな不安を一人で抱えていたお母さんが相談しました。スタッフの「毎日頑張っているんですね」という言葉に、「話せて**気持ちが楽になりました**」と返信がありました。**悩みだけでなく、利用者の気持ちにもよりそうことを大切にしています。**



### こどもの悩みを安心へ

「家に帰るのがつらい」——こども自身からそんな声が届いたこともあります。スタッフは背景にある状況を丁寧に聞き、チームで対応を検討しました。**こどもが安心できる環境を一緒に考え続けることが、私たちの役割だと思っています。**



おやこよりそいチャットやまがた運営スタッフの皆さん

「こんなこと相談していいのかな」

——そう思って飲み込んでいませんか？

山形市では昨年度、延べ3,721件の相談が寄せられました。

あなたが感じていることは、きっと一人だけじゃない。

まず、送ってみてください。